

Nissha Today

Empowering Your Vision



第97期 中間報告書

2015年4月1日 - 2015年9月30日

日本写真印刷株式会社

証券コード 7915

社長メッセージ 01

トピックス 04

特集 世界最大手の蒸着紙メーカーARMを買収 05

業績ハイライト 07

会社概要/株式の状況 09

コミュニケーション 10

社長メッセージ

株主のみなさまには平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り御礼申し上げます。
2016年3月期第2四半期(累計)と今後の見通しについて、
代表取締役社長 兼 最高経営責任者の鈴木順也よりご説明申し上げます。



第5次中期経営計画で掲げる
事業ポートフォリオの組み換えは、
着実に前進しています。

鈴木順也

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

Q はじめに2016年3月期第2四半期(累計)の実績について説明してください。

A 売上高は期初予想に届きませんでした、利益は期初予想を大きく上回りました。

2016年3月期の第2四半期(累計)、すなわち上期の間、米国では景気の回復基調が継続し、欧州では景気は緩やかに回復しました。一方、中国をはじめとするアジア新興国の景気には緩やかな減速がみられました。

このような状況のもと、当社グループにおいては、主力のデバイス事業は需要変動に適応したリーンな生産体制を確

立するとともに生産効率の改善に努め、産業資材事業は安定的な成長の見込める自動車や家電向けの製品を拡販するなど、利益の拡大に取り組みました。

これらの結果、上期の業績は、売上高は516億円(前年同期比6.4%減)、営業利益は29億円(前年同期比4.6%増)となりました。売上高は期初予想の550億円を下回ったものの、営業利益は期初に予想していた20億円を大きく上回りました。経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益については、円安による為替差益を大きく計上した前年同期の水準には及ばないものの、営業利益の拡大によって期初予想を大きく上回って着地しました。

Q 本年4月にスタートした第5次中期経営計画の進捗を教えてください。

A 8月には過去最大規模のM&Aを実施、事業ポートフォリオの組み換えに取り組んでいます。

当社グループは、2015年4月から事業ポートフォリオ（構成・組み合わせ）の組み換えを基本戦略とする第5次中期経営計画（2016年3月期～2018年3月期）の運用を開始しました。当社グループが持続的かつ安定的な成長を実現するためには、これまでに培ってきた印刷技術による事業領域の拡大に留まらず、印刷技術に匹敵する新たなコア（中核）技術を取り込むことで、世の中にない全く新しい価値や製品群を創出するとともに、グローバルレベル（世界規模）で成長が期待される市場へ進出することが必要不可欠と考えています。

新たなコア技術や新たな市場への販路などを獲得するために、M&Aは有効な手段のひとつと考えられます。当社は2015年8月6日、ラベルやパッケージ向けの蒸着紙を手がける世界最大手のAR Metallizingグループ（エーアールメタライジング/ベルギー、以下ARM）を買収・子会社化しました。これにより、当社グループは印刷の近接領域で蒸着紙を製品ラインナップに取り込むとともに、グローバル市場における飲料品、食品、日用品などの商圏を獲得することになりました。

ARMの買収金額は150億円規模であり、当社としては過去最大の買収案件となりました。第5次中期経営計画の初年

2016年3月期第2四半期（累計）業績のポイント

売上高



516億円

前年同期比 6.4%減

営業利益



29億円

前年同期比 4.6%増

期初予想を大きく上回る

親会社株主に帰属する
四半期純利益



22億円

前年同期比 29.4%減

期初予想を大きく上回る

中間配当金

1株当たり15円

度という早い段階でARMを子会社化したことは、本中期経営計画が掲げる事業ポートフォリオの組み換えや業績計画の実現に向けて大きな弾みになったと考えています。当社は、3カ年の第5次中期経営計画において、M&Aを活用した成長を主要な戦略の一つに掲げており、3年間で350億円の予算枠を設定しています。現在はARMに続く具体的な案件の発掘・調査に取り組んでいるところです。

※AR Metallizingグループの詳細は特集(P.5～6)をご覧ください。

Q 2016年3月期、通期業績の見通しはいかがでしょうか？

A 上期の実績を踏まえ、利益を上方修正しました。

前述のとおり、上期において、売上高は期初予想をやや下回り、利益面ではこれを上回る結果となりました。こうした実績を踏まえ、当社は2015年11月6日付で2016年3月期通期の業績予想を修正しました。通期売上高は前期比0.2%増の1,190億円、営業利益は前期比2.9%増の90億円を予想しています。なお、為替レート的前提は、期初の予想と同じ1ドル=118円としております。

事業別には、デバイス事業の主力製品である静電容量方式タッチパネルが引き続き業績の牽引役となる見通しです。製品需要の変動を先読みしたリーンな生産体制を継続するほか、さらなる生産効率の改善などによって、利益の最大

化を図ります。産業資材事業については、主力である自動車（内装）の需要が引き続き堅調に推移する見通しです。携帯電話向けでは中国市場の減速や一部の開発製品の市場投入に遅れが見られることから、期初の予想を下回る見通しですが、ARMの子会社化による業績貢献などもあり、事業全体としては前期比で増収増益となる見通しです。情報コミュニケーション事業については、7月1日に実施した分社化の効果などにより通期の黒字化を目指します。

Q コーポレートガバナンスに関する会社の考え方を聞かせてください。

A 新たに制定した「コーポレートガバナンス基本方針」に基づき、経営の透明性を高めます。

当社は、「印刷を基盤に培った固有技術を核とする事業活動を通して、広く社会との相互信頼に基づいた《共生》を目指す」という企業理念のもと、株主のみなさまをはじめ、お客さま、社員、サプライヤー、地域社会といったステークホルダー（利害関係者）と信頼関係を築き、企業としての社会的責任を果たすことが、当社の持続的な成長と企業価値の向上につながると捉えています。こうした認識のもと、当社ではコーポレートガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして捉え、これまで執行役員制度の採用による業務執行の迅速化や、社外取

2016年3月期通期業績予想

	2015年3月期(実績)	2016年3月期(予想)*	前期比	事業別売上高(予想)	前期比
売上高	118,775	119,000	+0.2%	産業資材	38,600 +31.0%
営業利益	8,750	9,000	+2.9%	デバイス	61,200 ▲12.9%
経常利益	12,494	8,900	▲28.8%	情報コミュニケーション	17,500 ▲2.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	11,245	7,500	▲33.3%	その他(ライフィノベーションを含む)	1,700 -
1株当たり当期純利益(円)	262.05	174.77	-		

*2015年11月6日付で通期業績予想の修正を公表しました。修正前(2015年5月12日公表)：売上高120,000百万円 営業利益8,500百万円

締役の活用による経営監視機能の強化などに取り組んできました。

2015年10月30日、当社は新たに「コーポレートガバナンス基本方針」を制定しました。これは、わが国が成長戦略の一環として推進する「コーポレートガバナンス・コード」に対応した基本方針です。「コーポレートガバナンス・コード」とは、企業が株主をはじめ、お客さま・社員・地域社会等の立場を踏まえた上で、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みのことです。当社はこの基本方針に基づき、経営の透明性を高め、ステークホルダーのみなさまから一層の信頼を得られるよう努めていく考えです。

Q 最後に株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

A さらなる企業価値の向上に全力で臨みます。

第5次中期経営計画のスタートから半年以上が経ちました。当社グループは、本中期経営計画で掲げる事業ポートフォリオの組み換えを実現すべく、具体的な打ち手を迅速に実行してまいります。持続的な成長を目指して、引き続き経営者・社員一同全力で臨みますので、みなさまのご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

トピックス

情報コミュニケーション事業を分社化

当社は、2015年7月1日付で、情報コミュニケーション事業を当社の完全子会社である日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社に承継し、分社化しました。

情報コミュニケーション事業は、当社が創業に際して志向した高品位な美術印刷の流れを継承し、一般印刷物の生産・販売を主力としてきました。近年は、お客さま企業の広告宣伝、販売などに関わるコミュニケーション活動全般をサポートするセールスプロモーションやWebソリューションなどへの展開を強化しています。国内の印刷市場が縮小する一方、新たな情報メディアが次々に誕生するなど、社会のコミュニケーションのあり方が多様化し続けていることから、同事業の成長機会は数多く存在すると考えられます。今回の分社化は市場環境の絶え間ない変化に迅速に対応するための体制を整えることを目的としています。

日本写真印刷コミュニケーションズは、今後も、当社の創業の精神、「他社の手がけないことをやる」を受け継ぎ、従来の印刷物の生産・販売にとどまらず、お客さま企業のパートナーとしてコミュニケーション戦略に関わる付加価値の高い製品・サービスを提供します。

第96期定時株主総会を開催

2015年6月19日、当社は、第96期定時株主総会を開催し、261人の株主さまにご出席いただきました。質疑では、3人の株主さまより、デバイス事業に関わる製品の需要状況や、為替影響などに関するご質問、ご意見をいただきました。総会後には経営説明会を開催し、社長の鈴木順也より、2015年4月から運用が開始された第5次中期経営計画の具体的な取り組みや経営のダイバーシティ(多様性)などについて説明しました。また、当社事業についてのご理解を

より深めていただけるように、最新製品の展示説明と、印刷文化と当社技術の変遷を展示した明治建築「本館」の見学を実施しました。



株主総会

製品展示

展覧会への協賛

当社では、芸術・文化の振興に貢献するとともに地域社会との結びつきを深めるために、展覧会への協賛活動を行っています。

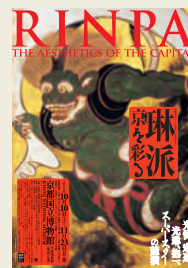
■「トーベ・ヤンソン展 ～ムーミンと生きる～」

(2014年10月～2015年9月)

本展は、ムーミンシリーズを生んだトーベ・ヤンソン(1914～2001)の生誕100周年を記念したものです。フィンランド国立アテネウム美術館で開催の回顧展(2014年3月～9月)が日本向けに再構成され、原画やイラストなど400点以上が、大阪や横浜など全国5都市の巡回展で紹介されました。

■「琳派 ^{みやこ} 京を彩る」(2015年10月～11月)

琳派とは、江戸時代に現れた装飾的な作風を特色とする、俵屋宗達、尾形光琳・乾山、酒井抱一といった芸術家の一団をゆるやかにつなぐ言葉です。本展は、琳派の祖のひとりである本阿弥光悦が徳川家康から鷹峯の地を拝領して400年となることを記念して、京都国立博物館にて開催されました。



「琳派 京を彩る」ポスター

ワイヤレススイッチ

"Aerial Switch"がグッドデザイン賞を受賞

当社が開発した、場所を選ばず設置できるワイヤレススイッチ "Aerial Switch(エアリアルスイッチ)" が、2015年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

Aerial Switchは、ソーラーパネルなどによる微弱な電力によって機能するスイッチで、配線の必要がなく、ガラス製の壁面などに自由に設置することができます。施工の手間を大幅に軽減することが可能で、リフォーム時の間取り変更にも柔軟に対応することができます。



Aerial Switch

特集 世界最大手の蒸着紙メーカー AR Metallizingグループを買収

2015年8月6日、当社は世界最大手の蒸着紙メーカーであるAR Metallizingおよびそのグループ会社(エアールメタライジング/以下、ARM)を買収・子会社化しました。今回の特集では、新たに当社グループに加わったARMの事業内容と戦略についてご紹介します。

AR Metallizingグループ

社員数

約290名

売上高(2014年12月期)

109百万ユーロ(*約147億円)

*1ユーロ=135円

事業内容

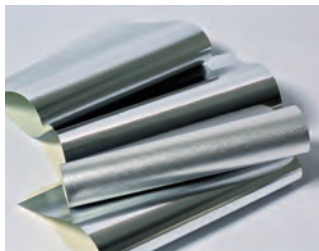
飲料品、食品、日用品などのラベル、
パッケージ用の蒸着紙の生産・販売

■ ARMは世界最大手の蒸着紙メーカー

飲料品や食品、日用品など多様な商品を彩るラベルやパッケージ。これらの材料として使われる特殊な紙が蒸着紙です。蒸着紙とは、アルミニウムなどの金属の層が付与された紙のことで、通常の白い紙とは異なり、さまざまな商品のプレミアム感(高級感)を演出する役割を果たしています。

ARMが生産する蒸着紙は印刷会社へ納入され、ラベルやパッケージなどへと加工されます。ARMの蒸着紙は意匠性、機能性、印刷適性に優れることから、幅広い業界で採用されています。なかでも飲料品のビンに使われるラベルの需要は大きく、ビールや清涼飲料水などの世界的なトップブランドに広く採用されています。その他ラベル用途としては、食品や調味料のビンや缶詰、日用品のスプレー缶などに用いられているほか、ラベル以外の用途としては、菓子類やDVDのパッケージ、パンフレットなどの紙製品、ギフト用のラッピング資材などで、数多く採用されています。

こうした旺盛な需要に応えるため、ARMはベルギー、イタリア、アメリカの3工場で蒸着紙を生産し、世界80カ



ARMの蒸着紙は印刷適性が高く、あらゆる印刷工法とインキに対応可能です。

国・約300社の印刷会社や加工会社に製品を提供しています。同社は、蒸着紙のグローバル市場において約40%のシェアを有する世界最大手の蒸着紙メーカーです。

今後、北米やヨーロッパなどの先進国においては、商品の差別化要素として外装パッケージの重要性が一層高まることが想定されるほか、南米、アフリカ、東南アジアなどの新興国においては、経済成長の高まりとともに蒸着紙需要の急速な高まりが見込まれることから、ARMの成長のポテンシャル(潜在的な力)は高いと考えられます。

■ 新しいコア技術の取り込みで新市場へ進出

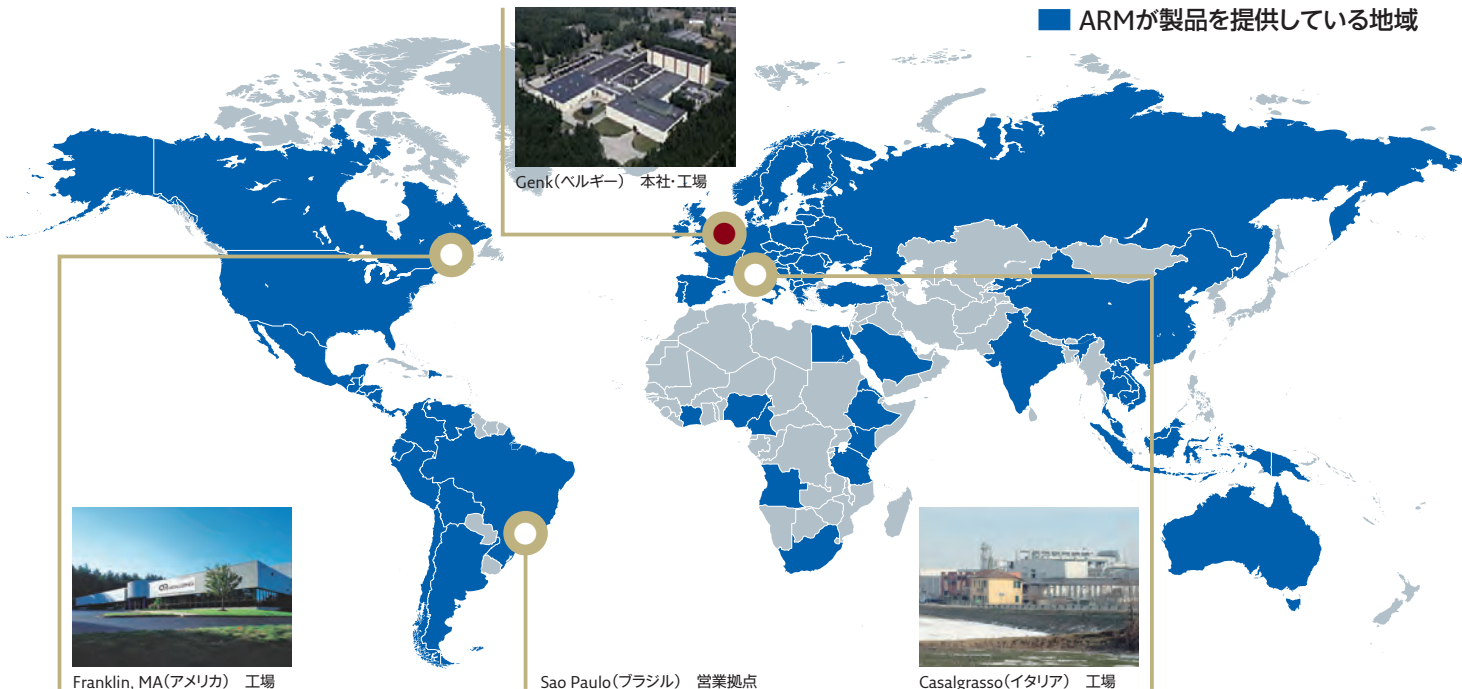
当社は、2015年4月から運用を開始した3カ年の第5次中期経営計画において、「印刷技術に新たなコア技術を獲得・融合し、グローバル成長市場で事業ポートフォリオの組み換えを完成させる」というビジョン(3年後に目指すあるべき姿)を掲げています。当社がこれまでに培ってきた印刷技術の領域拡大に加えて、これに匹敵するような新たなコア技術(中核となる技術)を取り込むことで、世の中になく全く新しい価値や製品群を創出するとともに、グローバルレベル(世界規模)で成長が期待される市場への進出に取り組んでいます。

当社の産業資材事業は、主力の加飾製品においてはグローバルレベルで安定成長が期待される自動車や家電などを重点市場

グローバル市場でシェア40% 業界第1位

ARMは北米、ヨーロッパ、アフリカの各地域で市場シェア第1位です。

ARMが製品を提供している地域



Genk(ベルギー) 本社・工場

Franklin, MA(アメリカ) 工場

Sao Paulo(ブラジル) 営業拠点

Casalgrasso(イタリア) 工場

と定め、市場の特性に応じた生産体制の構築を推進していますが、その一方で印刷や加飾の川上(上流工程)に位置する、材料などの印刷関連資材の分野に注目してきました。ARMは当社のような印刷会社から見て、一段川上の業界に位置づけられる原材料を生産するメーカーといえます。

今回の買収を通じて、当社の産業資材事業は印刷関連の原材料である蒸着紙を製品ポートフォリオに取り込むと同時に、グローバル市場における飲料品、食品、日用品などといった安定成長が期待される大きな商圏を獲得することになりました。今後は、ARMの有する有形・無形の資産を活用するとともに、当社が持つ固有技術と融合させ、新たな製品群と市場価値を創出することを目指します。

ARMの最高経営責任者(CEO)からのメッセージ

NISSHAは私たちARMにとって理想のパートナーです。Nisshaグループへの仲間入りは、お互いが有する固有技術とビジネス知識を活用し合える素晴らしい機会と捉えています。ARMとNISSHAの社員の相互理解に基づく強力なシナジーが生まれることを期待しています。

バート・デボス Ph.D.
日本写真印刷株式会社 執行役員
AR Metallizing N.V.
最高経営責任者(CEO)

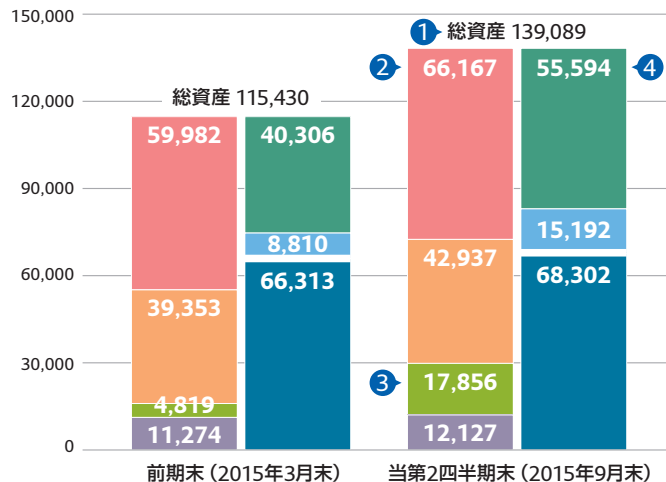


2016年3月期第2四半期(累計)業績ハイライト

四半期連結貸借対照表

■ 流動資産
 ■ 有形固定資産
 ■ 無形固定資産
 ■ 投資その他の資産
 ■ 流動負債
 ■ 固定負債
 ■ 純資産

単位：百万円



POINT

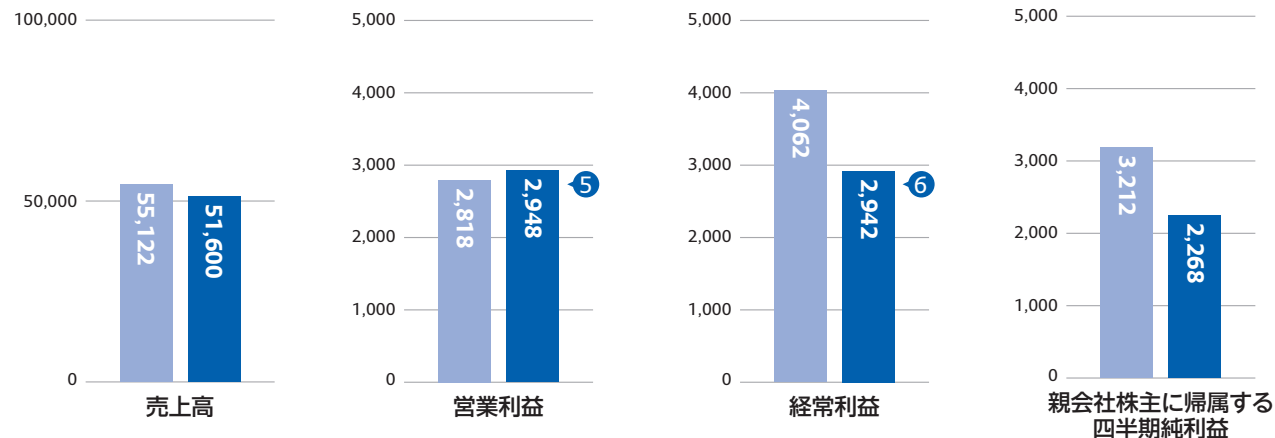
- ① 企業買収を実施したことなどにより、総資産が増加しました。
- ② 現預金は減少した一方、受取手形・売掛金・たな卸資産などが増加し、流動資産は増加しました。
- ③ 企業買収を実施したことでのれんが増加し、無形固定資産は増加しました。
- ④ 企業買収にあたって実行した銀行借入により短期借入金が増加し、流動負債は増加しました。
- ⑤ コストコントロールと生産効率の改善などによって営業利益は、前年同期比4.6%増となりました。
- ⑥ 円安による為替差益を計上した前年同期の水準には及ばないものの、期初予想を大きく上回りました。

四半期連結損益計算書

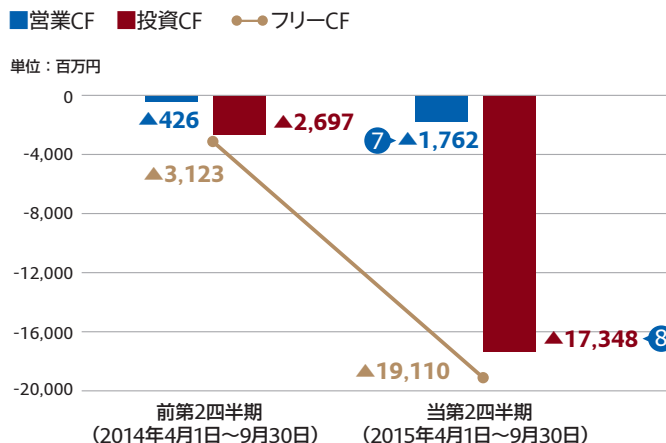
■ 前第2四半期：2014年4月1日～2014年9月30日

■ 当第2四半期：2015年4月1日～2015年9月30日

単位：百万円



四半期連結キャッシュ・フロー計算書



POINT

- 売上債権、たな卸資産の増加にともなって運転資金が増加し、17億62百万円の支出となりました。
- 固定資産の取得や子会社株式の取得などにより、173億48百万円の支出となりました。

事業別の業績

産業資材	デバイス	情報コミュニケーション
<p>売上高 17,236百万円 ▲</p> <p>(前年同期比36.4%増)</p> <p>営業利益 27百万円 ▲</p> <p>(前年同期は▲673百万円)</p> <p>重点市場と定めた自動車(内装)、家電製品向けの需要が堅調に推移しました。</p>	<p>売上高 26,217百万円 ▼</p> <p>(前年同期比23.0%減)</p> <p>営業利益 5,200百万円 ▼</p> <p>(前年同期比10.3%減)</p> <p>タブレット端末向け静電容量方式タッチパネルの需要が予想を下回って推移したものの、利益面では期初の予想を大きく上回りました。</p>	<p>売上高 7,485百万円 ➡</p> <p>(前年同期比7.2%減)</p> <p>営業利益 ▲284百万円 ➡</p> <p>(前年同期は▲428百万円)</p> <p>主力の商業分野では情報メディアの多様化による印刷物の減少などの影響があり、受注競争は激しいものとなりました。</p>

※ライフイノベーション事業は、事業としての立ち上げのステージにあり、業績への貢献は限定的なため、記載を省略しています。

会社概要

商号	日本写真印刷株式会社
創業	1929年10月6日
設立	1946年12月28日
資本金	56億8,479万円
社員数	単体787人、連結3,837人(2015年9月30日現在)
拠点数	国内(関係会社含む)14カ所 海外(現地法人、持分法適用会社含む)28カ所

役員の状況 (2015年9月30日現在)

取締役	代表取締役社長 兼 最高経営責任者	鈴木 順也
	取締役	橋本 孝夫
	取締役	西原 勇人
	取締役	辻 良治
	取締役(社外)	久保田民雄
	取締役(社外)	小島 健司
監査役	取締役(社外)	野原佐和子
	常勤監査役	小西 均
	常勤監査役	野中 康朗
	監査役(社外)	桃尾 重明
	監査役(社外)	中野 雄介

執行役員	専務執行役員 兼 最高技術責任者	橋本 孝夫
	専務執行役員	加藤 精彦
	専務執行役員 兼 最高財務責任者	西原 勇人
	常務執行役員 兼 最高生産責任者	柴田 卓治
	常務執行役員	伊藤 壽幸
	常務執行役員	井ノ上大輔
	上席執行役員 兼 最高品質責任者	山口 秀則
	上席執行役員 兼 最高情報責任者	青山 美民
	上席執行役員	岸 圭司
	上席執行役員	面 了明
	執行役員	三田村正幸
	執行役員	久保 信夫
	執行役員	バート・デボス
	執行役員	礪 尚
	執行役員	西本 裕
	執行役員	杉原 淳
	執行役員	渡邊 亘

株式の状況

(2015年9月30日現在)

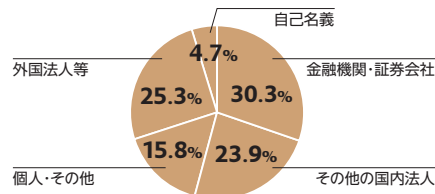
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式の総数	45,029,493株
株主数	8,503人

大株主

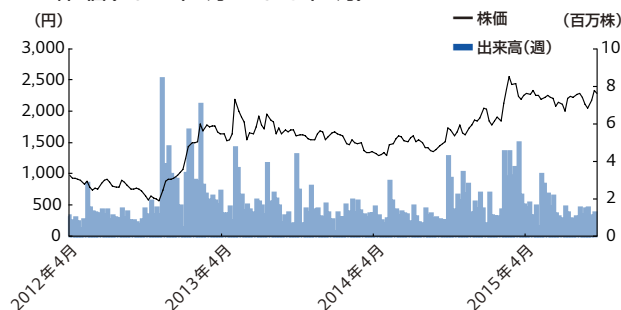
株主名	所有株数(千株)	所有比率(%)
TAIYO FUND, L.P.	3,350	7.44
鈴木興産株式会社	2,563	5.69
明治安田生命保険相互会社	2,341	5.20
株式会社みずほ銀行	2,076	4.61
株式会社京都銀行	1,442	3.20
ニッセイ共栄会	1,031	2.29
DIC株式会社	905	2.01
王子ホールディングス株式会社	894	1.98
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	820	1.82
TAIYO HANEI FUND, L.P.	782	1.73

*当社は、自己株式2,116千株を所有しており、上記大株主から除外しております。

所有者別状況(保有株式数比率)



株価(2012年4月~2015年9月)



コミュニケーション

2015年6月にお送りしました「第96期報告書」のアンケートでは、640人の株主さまから貴重なご回答をいただきました。多くの声をお寄せいただき、誠にありがとうございました。株主さまからいただいたご意見を一部ご紹介させていただきます。

Q

「報告書を読んで日本写真印刷の歴史や事業活動をもっと知りたいと思った」

「表紙写真でマイクロニードルパッチの紹介があったが、他にどのような技術を持っているのか教えてほしい」

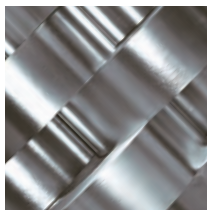
A

株主さまをはじめとするステークホルダーのみなさまに、当社のことを広く知っていただくために「Nissha Report 2015」(統合報告書)という年次レポートをWebサイトに掲載しております。当社の歴史や経営方針、事業内容、保有技術などをご報告しており、PDFファイルでダウンロードも可能です。ぜひご覧ください。

<http://www.nissha.com/ir/nisshareport.html>
Home > IR情報 > Nissha Report

アンケートご協力をお願い

株主さまからのアンケートへのご回答は、当社の経営やIR活動への貴重なご意見となっております。今後ともアンケートにご協力くださいますよう、よろしく願い申し上げます。



表紙の写真

今回の表紙は、2015年8月に新たに当社グループに加わったAR Metallizingグループ(以下、ARM)が生産する蒸着紙です。

蒸着紙とは、表面に金属の層を付与したメタリックな装飾効果のある特殊紙です。ラベルや包装紙などに用いられ、さまざまな商品のプレミアム感(高級感)を演出する役割を果たします。ARMの蒸着紙は、金属のような光沢をもちながらも、生分解性に優れるなど紙としての特性を併せ持つことから、環境に配慮したパッケージ材料として注目されています。

※ARMの詳細は特集(P.5～6)をご覧ください。



Nissha Report 2015 表紙

挑戦のあゆみ



主なコンテンツ

挑戦のあゆみ／CEOメッセージ／第5次中期経営計画／CFOメッセージ／NISSHAの事業／NISSHAの技術／NISSHAのコーポレート・ガバナンス／社外取締役メッセージ／NISSHAのCSR／財務情報

株主メモ

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都中央区八重洲1-2-1
みずほ信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都中央区八重洲1-2-1
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

各種お手続きの
お取扱窓口 お取引の証券会社等/
特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店

特別口座管理機関
お取扱店 みずほ証券およびみずほ信託銀行
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝を除く 9:00~17:00)

未払配当金のお支払
みずほ信託銀行およびみずほ銀行
(みずほ証券では取次のみとなります)

単元株式数 100株

公告方法 電子公告(<http://www.nissha.com>) ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います

上場証券取引所 東京

IRカレンダー 事業年度: 4月1日~3月31日

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
定時株主総会	中間配当基準日(9月30日)		定時株主総会の議決権・ 期末配当基準日 (3月31日)
4月 5月 6月	7月 8月 9月	10月 11月 12月	1月 2月 3月
通期決算発表	第1四半期決算発表	第2四半期決算発表	第3四半期決算発表

IR情報に関するお問い合わせ

日本写真印刷株式会社

経営企画部IRグループ

〒604-8551 京都市中京区壬生花井町3
tel.075-811-8111(大代表)

NISSHA

NISSHAの事業

NISSHAは印刷技術を基盤に4つの事業を展開しています。

■ 産業資材

産業資材は、さまざまな素材の表面を美しく彩る独自製品を展開する事業です。プラスチック製品の成形と同時に絵柄を転写するIMDは、自動車(内装)、家電、携帯電話など幅広い製品に使われています。さらに、金属やガラスなど多様な素材への加飾や機能の付与、印刷関連資材(蒸着紙)の生産・販売も行っています。

■ デバイス

NISSHAは中小型タッチパネルの分野で世界トップクラスの技術を持ります。NISSHAのタッチパネルは、タブレット端末、スマートフォン、ゲーム機などさまざまな製品に搭載されています。押した圧力の強弱を検知するフォースセンサーなどの新製品開発にも取り組んでいます。

■ ライフイノベーション

ライフイノベーションは、人々の安全・安心で健康的なライフスタイルへの貢献を目指す新事業です。現在は、ガスや呼吸などの気体を検知するガスセンサーを提供しています。また医薬品と化粧品を対象とする新しいDDS(ドラッグデリバリーシステム)の展開を目指して、溶解性マイクロニードルパッチの製品開発を進めています。

■ 情報コミュニケーション

情報コミュニケーションは、企業・団体の情報発信やコミュニケーションをサポートする商業分野、出版物を手掛ける出版分野、文化資産を次世代に承継するデジタルアーカイブなどを展開しています。NISSHAはお客様のパートナーとなり、コミュニケーションに関するさまざまな課題を解決します。

ご注意

このNissha Todayに掲載されている情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、その他過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性がありますことをご承知おきください。このNissha Todayに掲載されている業績に関する記述は、特に注記がない限り、全て連結ベースとなっています。

